中部経済新聞
（第三種郵便物認可）　2022年（令和4年）3月7日　月曜日

OPINION

ナビゲーター

リポート コロナ禍に立ち向かう 世界のいま ～日本への提言～

（編集・翻訳 リーム中産連）

連載の「いま」と振り返り

39

今後世界はどう動くのか

「世界のいま」この連載は3月末をもって、一区切りとなる。ここにきて世界情勢はコロナ禍に加え、政治的な不安が増し、連載開始時とは環境変化を認めざるをえない。

この連載に登場した海外の状況も、それぞれ変化が起きている。

まず紹介するのは、昨年のウクライナ寄稿者（2月21日紙面で短信も紹介）からの2月25日の連絡。ロシア軍の国境越えに対する筆者からの問い合せに、「まだ生きています。国境へ移動中。まだ希望を持っています」（"Still alive And going to the border Still hope"）。侵略後の緊迫する動きが伝わってくる。

筆者は25日に返信し、ルーマニアあるいはポーランドへの移動かと問い返したが、それには返信がない（3月1日現在）。

昨年のルーマニアからの寄稿者からは、状況の問い合わせに対して、26日に以下の返信があった。「ウクライナの寄稿者は26日現在、大丈夫だと思う。しかし、状況は刻々と変化しており、良い方向には向かっていない。

自分が生きている間に、隣国がこんな状況になるとは、想像できなかった。私はいまイスタンブール空港にいて、モンゴルのウランバトゥールに向かっている。だから明日は君が考えるより日本の近くにいる。

首都ブカレストでは今年の冬は比較的暖かで、まったく雪はなく、乾燥している。3月初めに帰国したら、私は温室のなかで仕事を再開する」

世界のいまの連載は昨年4月に開始、これまで米国、スイス、フィンランド、メキシコ、英国、ウクライナ、ルーマニア、カナダ、カザフスタン、インドネシア、ロシア、モンゴル、イタリア、オーストリア、スペイン、バングラデシュ、オランダ、アルメニア、コロンビア、ニュージーランド、スリランカの21カ国からまとまった報告を受けた。この間、米国は複数の州、スイスは連載開示時と本年の初めに、原文が長い何本かは2回連続という形で記事を掲載することができた。

寄稿された海外の記事協力者に感謝する。掲載できた国々をみると、ある種感慨深いものがある。例えば、現在のウクライナ紛争に関与した国も記事を送ってくれている。これらの寄稿者がこの連載では仲良く並んでいるのに、現実の世界では大変な状況にあるのを見て、ということだ。

次回掲載は21日となる。月末までの2回は、リーム中産連が受託し、2月に開催されたJICA「企業経営者の経営能力向上」コースに参加したアフリカ9カ国の研修員からの報告をまとめる予定である。上記21カ国と、9カ国からの参加者全員が寄稿すれば、世界の国30カ国から報告がなされたということで、当初期待した内容がほぼ満たされたように思われ、読者の皆さまの関心にもお応えできたと考える次第である。

【リーム中産連】

（月曜日に掲載）